

平成 14 年 8 月 6 日

(社)日本地すべり学会、平成 14 年度
論文賞、研究奨励賞、谷口賞の受賞対象審査結果について

表彰委員会

1. 論文賞

受賞者：大八木規夫氏[(財)深田地質研究所]

対象論文：「地すべり構造」に関する一連の論文

審査結果：当該論文の独創性とその評価

いずれの分野の研究においても、対象とする現象を精緻な調査・計測によって解析し、多大な研究成果を挙げている例は多い。しかし、自然現象を体系化し、そこから新しい独創的な概念を創出することは容易ではない。今回、論文賞候補者による「地すべり構造」の概念の提唱とその具体的検証は、今日までの国内外の地すべり研究において、このような独創的、かつ包括的な概念はみられない。本研究は日本の地すべり学が生んだ世界に誇りうる業績の一つであり、今後、日本のみならず国際的にも「地すべり学」の発展に寄与するところが大きく、高く評価されるものと考ええる。

「地すべり構造」の概念は、北松地域の地すべりや島根県大東地域の崩壊調査など実地調査の経験を通して 1972 年に提唱された(論文 4)。当初あまりにも包括的で当時の研究・調査の水準では容易に解明しがたい内容であったことなどのため、なかなかその価値に対する理解は得られない状況であった。しかし、その後、氏は機会あるごとに、個々の地すべり、ならびに広域における地すべり活動の場を研究し、地すべり構造の具体化に努力したが、容易な作業ではなく、20 年以上もの歳月を要した。それとともに、地すべり構造の基本概念をたえず検討し、その確立に努めた(著書 1)。さらに、1990 年代以降、精力的にこの研究の具体化に没頭した。その成果は多くの論文・著書にまとめられており、氏のライフワークともなっている。以下、調査・研究と成果の適応と概念のとりまとめについて述べる。

1) 地すべり構造の概念に基づく地すべり地の調査研究

氏は、多数の地すべり地の調査をし、地すべり構造の概念提唱前の萌芽的研究として、島根県大東周辺の花崗岩の風化帯構造と崩壊との関係、北松地域第三系の鷲尾岳地すべりなどにおける先進的な研究成果が挙げられる(論文 1,2,3)。地すべり構造提唱後の具体的研究には、三波川結晶片岩地帯の木藤地すべり、伊豆大島近海地震による多数の崩壊、長野県西部地震による御岳山南斜面の大規模崩壊、四万十帯の西谷地すべり、八幡平火山西方の澄川地すべりなどの調査・研究が代表的である(論文 5,6,10,13,15,16)。これらの研究は、個々の地すべり・崩壊の研究としてもきわめて質的に評価しうるものであった。

これらの研究を通して、地表面の変形構造の詳細な調査とボーリングコアの観察から、それぞれの地すべり移動体において、特有の変形構造や運動構造を見出し、的確に地すべり構造の推論がすすめられた。とくに、大規模地すべり地形の形成を容易にする埋没カルデラにおける湖成堆積層の役割の発見など、卓越した成果が認められる。これらの地すべり構造の概念に基づく調査・研究成果は、今日の地すべりの調査研究の指針ともなっている。

2) 地すべり構造の概念に基づく広域の調査研究とその成果

氏は、さらに、広域における地すべりの特性の解明にあたって、各地に分布する地すべりの地すべり構造の特徴に基づいて、日本列島を構成する地質帯と地すべりとの関係を追跡した。これは、地すべり構造の概念が個々の地すべりの調査研究のみでなく、広域的な調査研究への活用が可能であることを示し、「地すべり学」体系化の枠組みを構成しうるきっかけとなり、これはきわめて優れた成果である(論文 8,9,12)。

近年、発生した澄川地すべりの調査・研究(論文 16)は、氏による東北地方から関東地方北部にかけて分布する後期中新世から更新世にいたる 70 余ヶ所のカルデラと地すべり地形との関係を明らかにする端緒ともなっている。これは、地すべり学のみならず火山学にも新たな知見を与えた画期的な研究成果である。

3) 「地すべり構造」の基本概念

地すべり現象は、その発生機構、変動の様相の実態解明などにおいて、きわめて複雑かつ多面的である。科学技術の分野の中でも「地すべり学」としての体系樹立には、幅広く学際的に広範な領域にわたる研究を必要とする。氏は、長年の調査資料による卓越した研究成果をふまえ、地すべり現象によって形成される構造体は、基本的にある特性を有しており、その特有の構造を「地すべり構造」と命名し、「斜面・地盤において、地すべりの運動そのものによって形成された空間状態の構成」と定義した。これが地すべり現象の発生から消滅までの過程の時間的および空間的変遷を明確に規定できることを示した。これは氏の卓抜な着眼点である。この概念によって、多面的で複雑な地すべり現象を系統立てた体系を確立することが容易となることを、実際の調査を通じて具体化した(論文 4,11,14, 著書 1)。

以上のことから、今回提出された大八木規夫氏の「地すべり構造」に関する一連の論文を、平成 14 年度(社)日本地すべり学会論文賞授与に該当するものと判断し、ここに報告する。

2. 奨励賞

該当者なし

3. 谷口賞

該当者なし

以上